

令和5年度 介護のしごと魅力発信等事業 (事業間連携等事業)

PwCコンサルティング合同会社
令和5年6月時点計画



目次

1. 事業背景と目的
2. 基本的な考え方
3. 事業説明
 - ① 事業を支える会議
 - ② 情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組
 - ③ 地域の介護人材確保対策に資する取組
 - ④ 魅力発信事業の効果分析
 - ⑤ 報告書の作成
4. スケジュール

1. 事業背景と目的 (1)経緯

- 「介護のしごと魅力発信等事業」も5か年で発展し、互いを理解する土壌が整ってきました。
- 令和4年度は都道府県担当者との接点も生まれましたが、評価の過程でPDCAを支援する必要性に気づきました。

年度	内容	成果や課題
H30	<ul style="list-style-type: none"> イベント型情報発信事業 ①デザインスクール(全国8都市, 72回)と②エキシビジョンイベント「おいおいおい展」(東京, 5日間)を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 厚生労働省が「魅力を発信する」事業を立ち上げた姿勢表明の意義 ✓ ①参加者数470名、②来場者数16,629名を含め総勢28,934名が参加 ◆ 一過性のムーブメントに終わらせない工夫が必要
R1	<ul style="list-style-type: none"> 6事業体制に再編 体験型・参加型イベント実施、世代横断的理解促進、ターゲット(若年/子育てを終えた主婦/アクティブシニア & 事業者向け)別魅力情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲットとの様々な接点を創出、研修等参加者の意識変容を促すための対話型アプローチを重視する取組が実施された ✓ 多様な施策が全国各地で展開され、施策強化ポイントが明確になった ◆ 各事業が独立して運営され協力関係や事業間シナジー(集客連携の効率化や課題に対する知恵の出し合い等)が生まれにくかった
R2	<ul style="list-style-type: none"> 前年の6事業の枠組みを維持・踏襲しつつ、前年の課題を踏まえて、世代横断的理解促進事業の「プラットフォーム構築」の一部で初めてPMO(Project Management Office)機能を持たせることにチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「事業間連携会議」3回を開催し、お互いの取組を知る機会を創出 ✓ 各事業でKPIを設定 ◆ 並列の6事業の1つがPMOをすることに他事業の賛同・協力が得にくかった ◆ 各事業でのKPI設定の依頼が事業実施途中となったことから、各事業個々のKPIとなった
R3	<ul style="list-style-type: none"> PMO+5事業に再編 評価分析手法を導入 事業間連携会議に加えオフトラック会議を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ロジックモデルを使い評価する仕組みを構築 ✓ 6事業の担当者同士の接点が増えた ◆ PMOも他の事業と並列であることは変わらない中、「ロジックモデルの作成支援」を唐突に言われ反発や戸惑いが起きた ◆ 各事業が同時期に採択され、連携の余地がなかった
R4	<ul style="list-style-type: none"> PMO+3事業に再編 「介護のしごと魅力発信サミット」開催で都道府県担当者との具体的な接点が生まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 4事業者の接点が増えた ✓ 都道府県担当者との接点が生まれた ◆ 「知る」ところで1年が終わり、「一緒に取り組む」はその兆しまで ◆ 都道府県においてはPDCAに課題

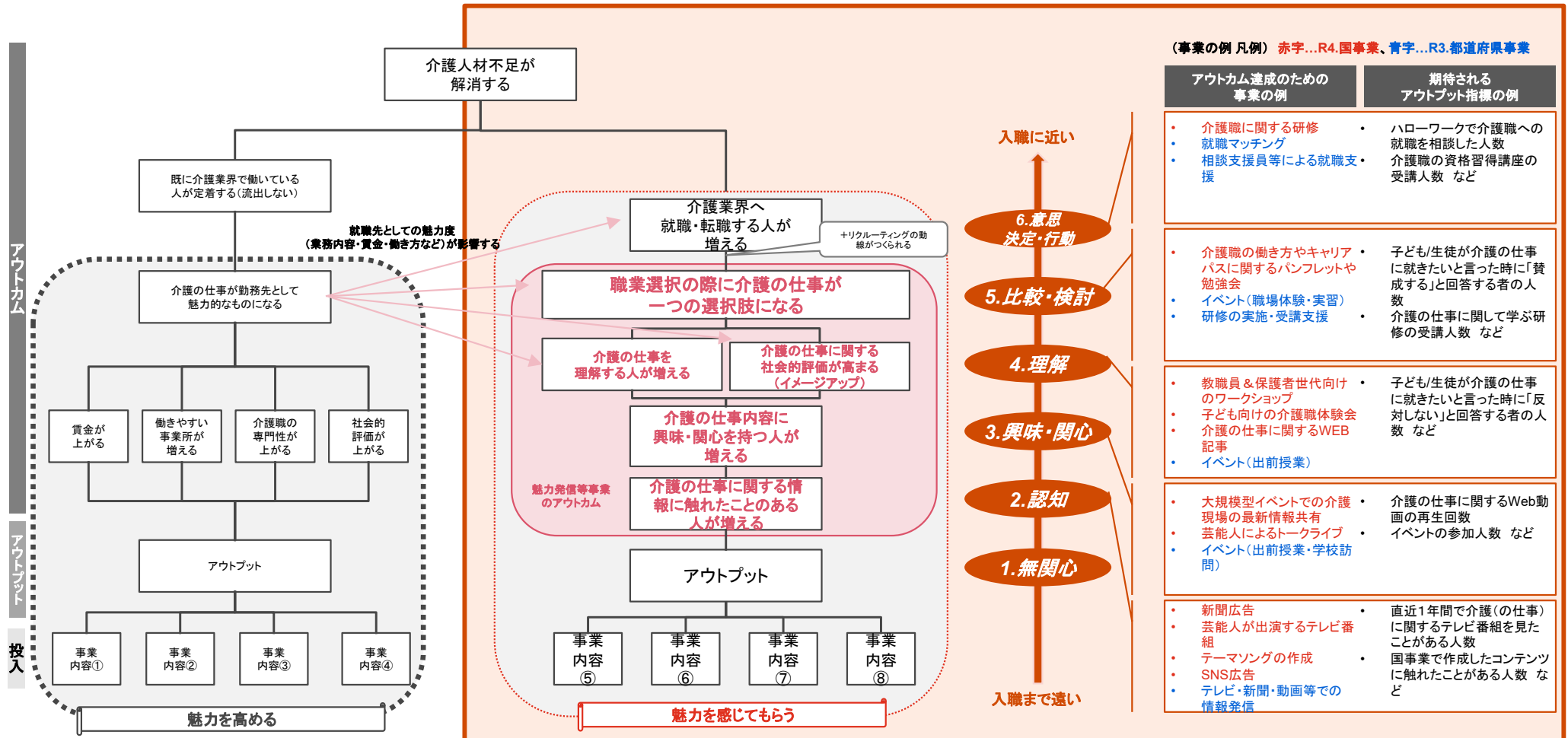
【今後に向けての課題】

- 「知る」ととどまらない仕組みづくり
- 事業年度のサイクルを加味した活動(次年度実務を円滑に進めるための充実した準備)

1. 事業背景と目的 (2) 成果と課題

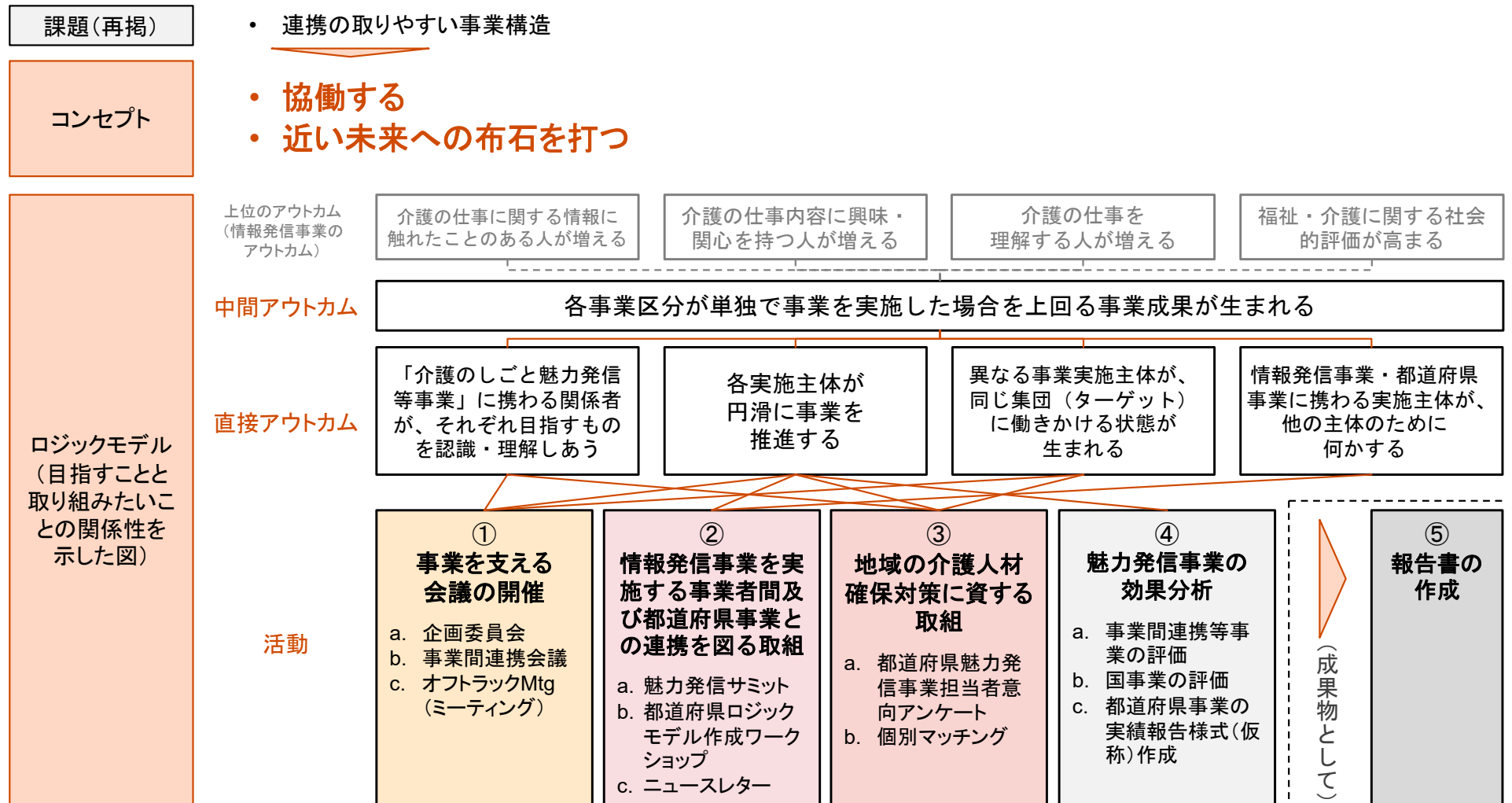
- ・ 介護人材確保対策の課題はターゲット集団の分散です。
- ・ 事業間連携等事業のミッションは、独立して採択される事業が同じターゲットに働きかける構造を作ることにあります。このため、私たちは、令和5年度の事業間連携等事業のテーマを「一緒にやってみる」と設定します。

令和5年度テーマ：「知る」だけでなく「一緒にやってみる」



2. 基本的な考え方

- 令和5年度は引き続き情報共有をしながら、連携の場を提供します。
- そのうえで、都道府県の介護人材確保対策(地域医療介護総合対策基金事業(以下「基金事業」)を中心とする事業、以下「都道府県事業」)に携わる方々に対し、国の魅力発信等事業同様、プログラム評価の考え方をベースに事業設計できるよう支援します。



3. 事業説明 ①事業を支える会議：各会議体の役割

- 事業間連携等事業では、役割や出席者の異なる3つの会議体を運営します。

各会議体の概要

会議体	役割	開催頻度／出席者
a. 企画委員会	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の円滑な運営のため、事務局に助言 サミットや関連イベントの企画運営検討 本事業が目指すアウトカムとアウトカム達成のための活動を示すロジックモデルについて事務局に助言 	<ul style="list-style-type: none"> 頻度：4～5回。ただし、情報把握のため、事業間連携会議やサミット実行委員会のオブザーバー参加も呼び掛ける 出席者：企画委員6名
b. 事業間連携会議	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業、事業間連携等事業、業界団体・職能団体の情報交換の場 発信するコンテンツや発信方法についてヒントを得る 	<ul style="list-style-type: none"> 頻度：3回程度 出席：情報発信等事業の代表、業界団体・職能団体代表、事務局（事業間連携等事業メンバー） オブザーブ参加（任意）で企画委員、都道府県の担当職員と同席も呼びかけ
c. オフトラックMtg	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業の実務者と事業間連携等事業の実務者とのフランクなコミュニケーションの場 情報交換から具体的な連携の模索までテーマは柔軟に設定 	<ul style="list-style-type: none"> 頻度：随時 出席：情報発信等事業のメンバー、事業間連携等事業のメンバー 1対1で開催する場合も、複数社で集まる場合もある

3. 事業説明 ①事業を支える会議 a.企画委員会(1/3)

- 企画委員には本事業全般について、設計から評価まで専門の立場からご助言いただきます。

企画委員(五十音順、敬称略)

氏名	所属	本事業における 専門領域・キーワード
秋本 可愛	株式会社Blanket 代表取締役	採用・人材育成 介護・福祉 ※R2年度魅力発信事業に採択団体として参画
梶 望	株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ EPICレコードジャパン	エンターテインメント マーケティング
金山 峰之	ケアソーシャルワーク研究所 所長	介護・福祉 介護事業所における実務・マネジメント
新藤 健太	日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉援助学科 講師	評価学 介護・福祉
鈴木 俊文	静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 教授	社会福祉学 行政実務
吉岡 俊昭	公益社団法人 日本介護福祉士会 常任理事	介護・福祉 職能団体

3. 事業説明 ①事業を支える会議 a.企画委員会(2/3)

- 本事業の評価の観点から「ロジックモデル・評価デザイン検討ワークショップ」、魅力発信事業全体の評価の観点から「事業間連携会議」の出席も、委員に依頼します。

回／時期	主な議題	
第1回 (6月9日)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業の概要 魅力発信サミット、ワークショップ、個別マッチングについて 自治体意向アンケートについて 	7月7日 ロジックモデル・ 評価デザイン検討WS 【次スライドで詳述】
第1回事業間連携会議 (6月～7月:日程調整中)	<ul style="list-style-type: none"> 各社の事業説明 魅力発信サミットの案内 業界団体・職能団体の協力について 	
第2回 (7月～8月)	<ul style="list-style-type: none"> 魅力発信サミット等の集客状況 自治体意向アンケートの結果、個別マッチングについて 都道府県事業の報告様式について 	8月末～9月中旬 魅力発信サミット 【別スライドで詳述】
第3回 (9月～10月)	<ul style="list-style-type: none"> 魅力発信サミットの振り返り 個別マッチングについて 都道府県事業の報告様式について 	
第2回事業間連携会議 (10～11月)	<ul style="list-style-type: none"> 各事業区分の進捗共有 都道府県とのマッチングについて 	
第4回 (1月～2月)	<ul style="list-style-type: none"> マッチング結果の振り返り 評価分析について 報告書章立て案 	
第3回事業間連携会議 (2月頃)	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の振り返り 	
第5回 (2月～3月) <small>※書面開催の可能性あり</small>	<ul style="list-style-type: none"> 評価分析について 報告書内容の確認:特に評価分析について 	

事業間連携会議や主要イベントに先立って企画委員会を開催し、事業全体の進捗に関して助言を仰ぐ

3. 事業説明 ①事業を支える会議 a.企画委員会(3/3)

- 事業間連携等事業が目指すアウトカムと、達成に必要な活動およびその評価指標を検討するため、ロジックモデル策定ワークショップ(WS)を開催します。

開催目的	<ul style="list-style-type: none">令和5年度事業間連携等事業のロジックモデル策定
作成物	<ul style="list-style-type: none">令和5年度事業間連携等事業 ロジックモデル・評価指標<ul style="list-style-type: none">各活動の<u>アウトプット・直接アウトカム・中間アウトカム・最終アウトカム</u>各種アウトカムの<u>評価指標と判断基準</u> ※評価指標・判断基準についてはWS内で時間が不足した場合、後日事務局で検討した内容をメールベースで共有予定
開催時期	7月7日(金) 9:00~12:00
開催場所	PwC大手町オフィス(Otemachi One会議室) ※オンラインの場合WSへの参加が難しいことが想定されるため原則対面とさせていただきます。
所要時間	約3時間
参加者	<ul style="list-style-type: none">企画委員の皆様、厚生労働省の皆様、PwC ※参加必須ではございませんが、できればご参加いただけますと幸いです。ファシリテーターは新藤委員にご依頼。PwCも担当予定
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none">PwCより、ロジックモデル案の説明 ※検討時間が限られるため、PwCにて予めたたき台を作成する想定ロジックモデル案について、参加者でのディスカッション

3. 事業説明 ①事業を支える会議 b.事業間連携会議(1/2)

- ・ 介護のしごと魅力発信等事業に携わる事業実施主体と、業界団体・職能団体の代表が集まり、事業に関する情報交換をする場として設定します。



回／時期	主な議題	活かし方の例
第1回 (6～7月)	<p style="color: orange; font-weight: bold;">互いを 知りたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業界団体・職能団体の期待値の確認 ・ 情報発信事業の事業計画、目標の確認 ・ 魅力発信サミットとその周辺イベントについて、周知広報のお願い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信事業で発信するコンテンツの内容 ・ 都道府県においてモデル的に取り組めること、話し合いの場
第2回 (11～12月)	<p style="color: orange; font-weight: bold;">連携を実 践したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業区分の進捗共有 ・ 都道府県との個別マッチングについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力発信事業を起点として都道府県単位で取り組む土台(R6年度に向けた準備)を作る
第3回 (2月頃)	<p style="color: orange; font-weight: bold;">フィード バックが ほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降の魅力発信事業に向けた改善点の洗い出し、改善方法の検討

【本年度以後の連携に向けた事業間連携会議でのディスカッション テーマ案】 ※会議時間次第だが第1回での設定を想定

- ・ 業界団体・職能団体からの採用戦略(ターゲット、目標水準)の共有
- ・ 業界団体・職能団体が感じている採用活動でうまくいっていること、困っていること
- ・ 魅力発信等事業の事業者に期待すること

3. 事業説明 ①事業を支える会議 b.事業間連携会議(2/3)

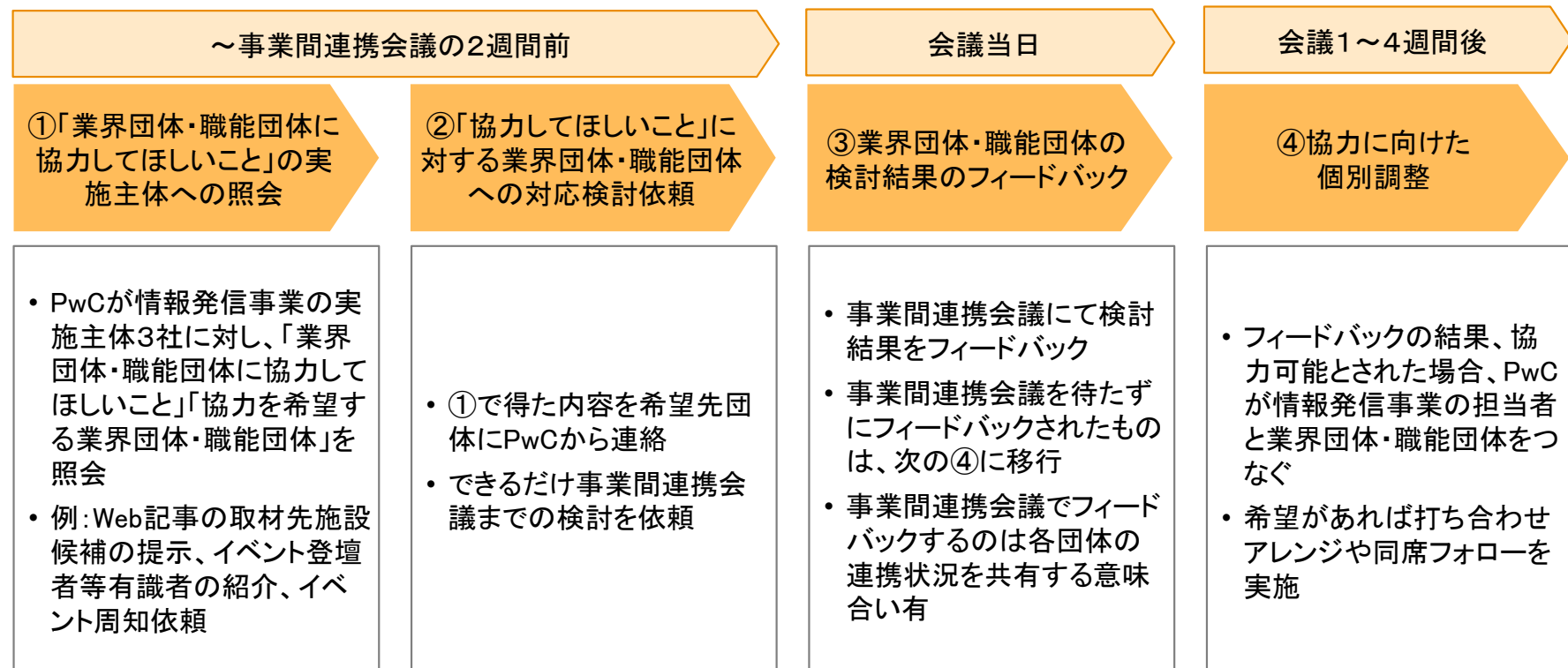
- ・ 事業実施団体、介護に関わる業界団体・職能団体9団体等にご参画いただきます。
- ・ 今年度は新たに、国事業の動きを知ってもらう機会として厚生労働省様経由で各都道府県にもオブザーブ参加をご案内予定です（参加任意）

団体名・参加予定者一覧(五十音順、敬称略、団体・職能団体のみ出席者として推薦のあった方の役職・氏名を記載)

カテゴリ	団体名	役職	氏名
事業実施団体	株式会社朝日新聞社	(未定)	
	株式会社マガジンハウス		
	楽天グループ株式会社		
	PwCコンサルティング合同会社		
業界団体・職能団体	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	事務局長代理	小森 敦
	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	(未定)	
	公益社団法人全国老人保健施設協会	人材対策部会	山野 雅弘
	公益社団法人日本介護福祉士会	常任理事	吉岡 俊昭
	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	総務・政策委員会委員	澤田 乃基
	高齢者住まい事業者団体連合会	事務局長	光元 兼二
	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 大阪福祉人材支援センター	New 人材担当部長	難波 志保
	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会	PR戦略特命チームリーダー	大崎 雅子
	全国福祉高等学校長会	事務局	小川 義光
オブザーバー (参加任意)	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室	(未定)	
	企画委員		
	各都道府県(介護のしごと魅力発信等業務担当部署)		

3. 事業説明 ①事業を支える会議 b.事業間連携会議(3/3)

- 連携を強化するため、今年度の事業間連携会議では実施団体から業界団体・職能団体に協力してほしいことを事前に聞き、業界団体・職能団体に伝えることとします。
- 会議当日は、できるだけ協力依頼に対する検討結果をお話しいただけるよう、業界団体・職能団体に依頼します。



補足: 事業間連携会議のタイミング以外でも、情報発信事業から団体への協力要望が寄せられたときは柔軟・迅速に対応します。

3. 事業説明 ①事業を支える会議 c.オフトラックMtg

- 情報発信事業の実施主体と、開催頻度や1回あたりの長さを柔軟に設定した打ち合わせを実施します。基本は1対1で開く想定ですが、必要に応じ複数事業者を招集します。
- 情報交換に加え、事業者の距離を縮め、一つの目的に向け協力する機運醸成も目指します。

オフィシャルトラック(事業間連携会議)とオフトラックの役割・性質の違い



【開催実績】

開催日時	参加者(順不同、団体名のみ)	アジェンダ	場所
5/12(金)	朝日新聞社、マガジンハウス、楽天グループ	①顔合わせ ②事業計画の共有	オンライン
5/23(火)	マガジンハウス	①PwC依頼事項の説明 ②困りごと伺い ③他社との連携イメージディスカッション	先方オフィス
5/25(木)	楽天グループ	同上	先方オフィス
5/26(金)	朝日新聞社	同上	先方オフィス

➡ オフトラックmtgが端緒となり、現在、実施主体間での相互送客等の協力が検討されている

3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

a. 介護のしごとと魅力発信サミット(1/4)

- 事業間連携会議の拡大版として、情報発信事業と都道府県事業の担当者がオンサイト(対面)とオンラインで終日集合し、魅力発信事業に関する取組を紹介しあいます。
- 令和5年度は対面重視の構成とし、都道府県支援を通じて「連携」のきっかけを作ります。

介護のしごとと魅力発信サミット 実施概要

コンセプト (目的)	<ul style="list-style-type: none">情報発信事業と都道府県事業をつなぐ都道府県事業どうしをつなぐ過去の魅力発信事業と今の魅力発信事業をつなぐ
対象	<ul style="list-style-type: none">都道府県事業の担当職員市区町村における介護分野の担当職員情報発信事業の実施主体過去の魅力発信事業の実施主体 <p>※自治体と連携して魅力発信を行う業界団体・職能団体や社会福祉協議会、民間事業者の参加も可</p>
実施時期	<ul style="list-style-type: none">9月中 <p>※都道府県予算案の検討時期に合わせて開催</p>
開催方法	<ul style="list-style-type: none">現地開催(弊社会議室を予定)とオンラインのハイブリッド <p>※現地定員:100名程度。アイランド形式での設営を想定</p>
企画概要	<ul style="list-style-type: none">【現地】【オンライン】約半日の講演・ワークショップ ※詳細次頁【現地】来場者同士の交流【現地】現地展示



3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

a. 介護のしごとと魅力発信サミット(2/4)

- 本年度は、介護人材確保対策に携わる方がより効果的な魅力発信につなげるための「体験」「経験」をしてもらう場をつくりまします。

時間	次第	内容	登壇者(敬称略)	備考
11:00-	開会	<ul style="list-style-type: none"> サミットの趣旨・会場注意事項等説明 	事務局	
11:05-	自己紹介・アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> 同テーブルの方同士の自己紹介 	事務局	参加者の島ごとに実施予定
11:10-	厚生労働省あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 介護人材確保対策について 魅力発信事業について 本サミットに期待すること 	厚生労働省	
11:20-	国事業 事業者説明	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業の主な取組 今後のイベント等について 	朝日新聞社、マガジンハウス、楽天グループ	10min*3
11:55-	名刺交換	<ul style="list-style-type: none"> 参加者間の名刺交換を自由に行なう 	—	オンライン参加者は先行して昼休憩
12:05-	昼休憩	—	—	国事業実施主体作成の映像を投影
13:10-	都道府県 事業説明	<ul style="list-style-type: none"> 介護人材確保やこれに資する魅力発信事業で、地域の特性を生かした取組や新しい・個性的な取組について 	(案)滋賀県・三重県・京都府 (2事例想定)	20min*2
13:50-	ロジックモデルWS	<p>テーマ:介護人材確保対策に関するロジックモデルを作ってみる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の県のロジックモデルを作る 評価項目、評価指標を作る 仕様書の大枠についてイメージを持つ <p>※詳細は登壇者とすり合わせの上決定</p>	日本社会事業大学 社会福祉学部 新藤 健太 先生	<ul style="list-style-type: none"> - ロジックモデルの説明20min - 最終アウトカム・中間アウトカム・直接アウトカム・アウトカム達成のための活動 検討 60min - 休憩 20min - 活動の評価指標・達成基準設定 60min
16:30-	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 今後活かしたいこと等のシェア 	事務局	
16:45	閉会		事務局	

3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

a. 介護のしごと魅力発信サミット(3/4)

- サミットの申込受付と広報のため、申込サイト(Eventos)およびフライヤーを作成します。

広報スケジュール				
時期	6月	7月	8月	9月
魅力発信サミット	登壇者・出展者調整 企画内容の調整			本番 ★
概略版広報	★ 発出		申込状況に応じて複数回周知	
詳細版広報(フライヤー)		★ 発出		
申込サイト(Eventos)	★ open	★ 更新	来場者・参加者受付	

広報チャンネル

- 厚生労働省様経由
 - One Public(厚生労働省と地方自治体の共同ポータルサイト)での周知
 - 都道府県・市区町村担当者への通知発送
- 業界団体・職能団体様経由
 - 会報・メーリングリスト
 - 各種SNSなど
- 昨年度サミット参加者(約200名)への直接広告
 - 昨年度参加者から頂いたアドレス宛に直接メール
- 情報発信事業実施主体の広報チャンネル
 - ウェブページ、各種SNSなど

3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

a. 介護のしごとと魅力発信サミット(4/4) 告知ページイメージ(令和4年度版ページ)

告知ページイメージ



フライヤーイメージ

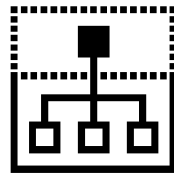


3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

b. ロジックモデル作成ワークショップ

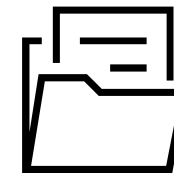
- 魅力発信サミットの後半時間を使い、都道府県事業の担当者がロジックモデルを理解し使えるようになるためのワークショップを開催します。
- サミット参加者の意向を踏まえながら、目的達成に資する仕様書を書くための特別イベントを別途設け、自治体における事業のPDCAサイクル実行を支援します。

①サミット内でのワークショップ



- テーマ：
介護人材確保対策に関するロジックモデルを作ってみる
- 開催時期：
9月 ※サミット当日
- 開催場所：
サミット会場
- 開催方法：
対面・オンライン

②特別イベント(希望者が多ければ)



サミット参加者に
ニーズ調査を行い、
実施可否を判断

- テーマ：
施策目的に即した仕様書骨子を書いてみる
- 開催時期：
10月～12月
- 開催場所：
東京・大手町近辺、大阪・梅田近辺
- 開催方法：
対面

- ① 目的と実施施策の筋道が通った計画策定を支援する
- ② 魅力発信の活動の一部を民間団体に委託する際、目的に即した仕様で公募できるようにする

3. 事業説明 ②情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組

c. ニュースレター

- 令和4年度の途中から発行を開始し、発信チャネルができたニュースレターは引き続き発行し、魅力発信等事業として各社が実施するイベント等情報を掲載します。

イメージ

発行概要

令和4年度介護のしごと魅力発信等事業ニュースレター 1月号

厚生労働省ではたくさんの人に福祉・介護の仕事について知ってもらい、関心を持ってもらうために様々な情報発信を行う「介護のしごと魅力発信等事業」を行っています。このニュースレターでは、魅力発信事業として行われるイベントやWebサイト・動画コンテンツなどについてご紹介します。イベントへの参加やWebサイトへのアクセス・シェアをお待ちしております！

近日開催のイベント

開催日時	イベント名/イベント内容	開催概要	申込・掲載サイトリンク
12/30 (金) 16:00~16:30	ラジオ番組「ゆうゆうLife」 パーソナリティに町田聖氏を迎え、介護のしごとの魅力を発信するラジオ特別番組を放送します。第1回のゲストには学生時代からフリーランスまで長年介護現場に従事していたメロイ組合会長の安藤なつ氏、第2回のゲストはニコニコ放送アウンサーの松本秀夫氏です。 「ゆうゆうLife」ホームページで音声アーカイブを配信予定です。	株式会社厚生労務新報社 放送チャンネル ニコニコ放送	公式サイトはこちら ゆうゆうLife

介護のしごと魅力発信等事業の関連Webコンテンツ更新情報

SNS・Webサイト更新情報	リンク
テレビ番組「介護のリアル〜まちから、ひとから、しごとから〜」アーカイブ配信 映画で介護福祉士役を演じた経験のある俳優・戸塚純貴氏が、実際の福祉・介護の現場などを訪れ、体験したこと、感じたことを綴った10ドキュメント番組全6回をアーカイブ配信しています。	配信サイトはこちら BSフロンティア
「TikTok」を使った若年層向けの情報発信 テックローラー・ライフスタイル系メディア「bouncy」の公式TikTokアカウントにて、介護現場を支える最新テクノロジーやGO! GO! KAI-GO応援団のメンバーを取り上げたコンテンツを発信しています。第2弾を12月9日に発信しています。	公式アカウントはこちら bouncy TikTokアカウント
特集記事「40歳からのLIFE SHIFT〜自分でできるがきとみつける〜」を掲載 デジタル小冊子「40歳からのLIFE SHIFT自分でできるがきとみつける」KAI-GOの働き方」も発行 未経験から福祉・介護の仕事に転職して活躍している方を取材し、仕事の内容、きっかけ、やりがい、福祉・介護の仕事を目指す方へのメッセージを記事として掲載しています。 また、子育てと段落着いて探検を考える層や、他業種からの転職を考えている層（主に40〜50代）を主な対象に介護の多様な働き方やロールモデル、キャリアパスを示すデジタル小冊子を発行しました。別業界から介護業界に転職した方のエピソードを例に「転職しさいせりロールモデル」として図解等でわかりやすく解説します。 (一部ニュースレター11・12月号より再掲)	公式サイトはこちら これからのKAI-GO 「自分でできるがきとみつける」 小冊子のDLはこちら URLリンク

当日は、大阪健康福祉短期大学特任教授の川口啓子氏による講演や、現役の介護職員による介護の仕事のこが面白いという点に関する講演、また介護職員の実生活を交えたディスカッションなどを行っています。(ニュースレター11・12月号より再掲)

介護のしごと魅力発信等事業の関連Webサイト・SNSアカウント (左から五十音順)

株式会社朝日新聞社	株式会社厚生労務新報社	株式会社厚生労務新報社
Webサイト これからのKAI-GO 事業ポータルサイト	Twitter ゆうゆうLife	Twitter GO!GO!KAI-GO プロジェクト
Facebook これからのKAI-GO	Webサイト ゆうゆうLife	Facebook GO!GO!KAI-GO プロジェクト
Webサイト なごまる Peatixアカウント	YouTube ゆうゆうLife	YouTube GO!GO!KAI-GO プロジェクト

発行先・お問い合わせ先
PwCコンサルティング合同会社
公共事業部
Email: jpb_kaijomiryoku@pwc.com

- ターゲット：
求職者、現在就業していない人
- 発行頻度：
1〜2カ月に1回
(情報発信事業の企画が固まる7月頃から発行予定)
- 発行媒体：
PDFファイル（壁新聞方式で1〜2ページ）
- 発信チャネル：
 - 厚生労働省のネットワーク（ハローワーク、福祉人材センター、自治体）
 - 業界団体・職能団体の会員ネットワーク
 - 情報発信事業のオウンドメディア
- 掲載内容：
 - 情報発信事業の直近イベント
 - 事業間連携等事業のイベント（介護のしごと魅力発信サミットなど）

3. 事業説明 ③地域の介護人材確保対策に資する取組

a. 都道府県魅力発信事業担当者意向クイックアンケート

- 過年度および本年度の魅力発信等事業のコンテンツの活用意向や国事業実施主体との今後の協業意向を調査するための簡易的なアンケートを実施します。
- 協業に関心の高い自治体には個別アプローチし、おつなぎすることも検討します。

アンケート実施概要

実施概要	<ul style="list-style-type: none">• 目的<ul style="list-style-type: none">✓ 情報発信事業と都道府県事業の連携の糸口を探る• 対象<ul style="list-style-type: none">✓ 都道府県で介護のしごとの魅力発信に携わる職員• 実施時期<ul style="list-style-type: none">✓ 6月中下旬• 実施方法<ul style="list-style-type: none">✓ メールにて発出、Googleフォームで回答
質問項目案	<ol style="list-style-type: none">1. 自治体概要<ol style="list-style-type: none">① 昨年度の魅力発信サミットへの参加状況② 昨年度の魅力発信サミットが都道府県事業に与えた影響2. 令和5年度介護のしごと魅力発信に関する事業の実施状況<ol style="list-style-type: none">① 介護のしごとの魅力発信に当たっての主要なターゲット層② 介護のしごとの魅力発信事業の地域ニーズの把握状況3. 自治体における介護人材確保対策で取り入れてみたいこと<ol style="list-style-type: none">① 既にある魅力発信等事業のコンテンツで「使いたい」と思うもの② ロジックモデル検討ワークショップへの参加意向

3. 事業説明 ③地域の介護人材確保対策に資する取組

b. 個別マッチング

- 意向アンケートの結果をもとに、国事業のコンテンツ活用に関心のある自治体を情報発信事業の実施主体とつなぎます。自治体同士の連携を支援する可能性もあります。
- サミットやワークショップの開催時期を踏まえながら、早ければ年度内、順当に準備が進めば次年度に結実するような仕掛けを作ります。



- 年度内の連携実績獲得（コンテンツ利用のためのコンタクト～事業の共同実施等）を目指す、一方で本年度の自治体予算やが年度当初に確定している点には留意
- 年度内連携が困難な場合は翌年度予算の検討時期を踏まえてアプローチし、機会損失を防ぐ

3. 事業説明 ④魅力発信事業の効果分析 a.国事業の評価

- 情報発信事業と事業間連携等事業は、各社が独自に評価指標を設定する構造であるため、各社設定の指標に沿って評価します。
- 国事業全体の評価は2月ころに各社のアウトプット・アウトカム実績、評価結果を集め総合的に判断します。

評価の種類	主な観点	評価方法
ニーズ評価	<ul style="list-style-type: none"> 解決されるべきニーズは何か 誰のニーズか 等 	<ul style="list-style-type: none"> 【本事業】事業間連携に関する活動が公募されていることを踏まえ「事業間連携等事業はニーズあり(なければ魅力発信事業が円滑に進まない)」と仮定。 事業がおおむね完了する段階で、当事業のニーズが本当にあったといえるか企画委員を交えて議論する 【情報発信事業】事業間連携等事業が各社活動のニーズがあるかまで把握することは困難。各社の企画委員会でニーズがあると確認されていると仮定
セオリー評価	<ul style="list-style-type: none"> 何を指すか どのような活動が必要か 	<ul style="list-style-type: none"> 【本事業】委員を交えたロジックモデルWSにて目的に即した活動を設計 【情報発信事業】各実施主体の事業計画を踏まえ妥当性等を確認する 【魅力発信事業全体】本事業・情報発信事業全体で積み上げ
プロセス評価	<ul style="list-style-type: none"> 活動実施中に何が起きているか なぜ起きているか どうしたらいいか 	<ul style="list-style-type: none"> 【本事業】企画委員会や厚生労働省Mtgで適正に実施されているか随時確認 【情報発信事業】事業間連携会議やオフトラックMtg等により適正に実施されているか把握 【魅力発信事業全体】上記確認結果を踏まえて事業全体で判断
アウトカム評価	<ul style="list-style-type: none"> プログラム実施によりターゲットに何が起こるか 	<ul style="list-style-type: none"> 【本事業】ロジックモデル評価デザインで設定した直接アウトカムの達成水準を踏まえて評価 【情報発信事業】各社が設定した目標水準にアウトカム実績を照らして評価 【魅力発信事業全体】上記確認結果を踏まえて事業全体で判断

3. 事業説明 ④魅力発信事業の効果分析 b.都道府県事業の評価基盤づくり

- 昨年度実施のアンケートでは、都道府県事業では評価指標の設定がないものが散見され、自治体職員も評価の難しさを感じていることが明らかになりました。
- 都道府県が事業計画・評価指標の設定をしやすくなるよう「地域医療介護総合確保基金を活用した事業の実施状況」に回答要領を作成する等の取組を行い、自治体に周知します。
 →【参考】老健局事業(評価分析事業。採択未定)と連携して実施。棲み分けは次スライドで整理

介護のしごとの魅力発信に関連する事業を実施する上での課題※1

介護のしごとの魅力発信に関連する事業を実施する上での課題

回答	回答数(箇所) (n=43)	割合(%)
1.【計画について】 解決すべき課題を明確にできていない	3	7.0%
2.【計画について】 解決すべき課題に対して有効なアプローチ方法がわからない	21	48.8%
3.【計画について】 予算が十分に確保できない	14	32.6%
4.【実行について】 事業の担い手がない	1	2.3%
5.【実行について】 新型コロナウイルスの影響により、事業を計画通りに実施することが難しい	27	62.8%
6.【実行について】 期待通りの成果をあげることが難しい	28	65.1%
7.【評価について】 事業の成果を測定することが難しい	35	81.4%
8.【改善について】 前年度事業の振り返りや分析結果を踏まえた基金事業の計画をすることが難しい	13	30.2%
9. 特に課題はない	0	0.0%
10. これまで介護のしごとと魅力に関連する事業を行ったことがない	0	0.0%
全体	43	100.0%

基金事業におけるアウトカム指標の設定状況

フラグ	事業件数	割合(%)
定量的な目標値(判断基準)が設定されていない	171	39.4%
定量的な目標値(判断基準)が設定されている	241	55.5%
アウトカムではない指標を設定している	22	5.1%
合計	434	100.0%

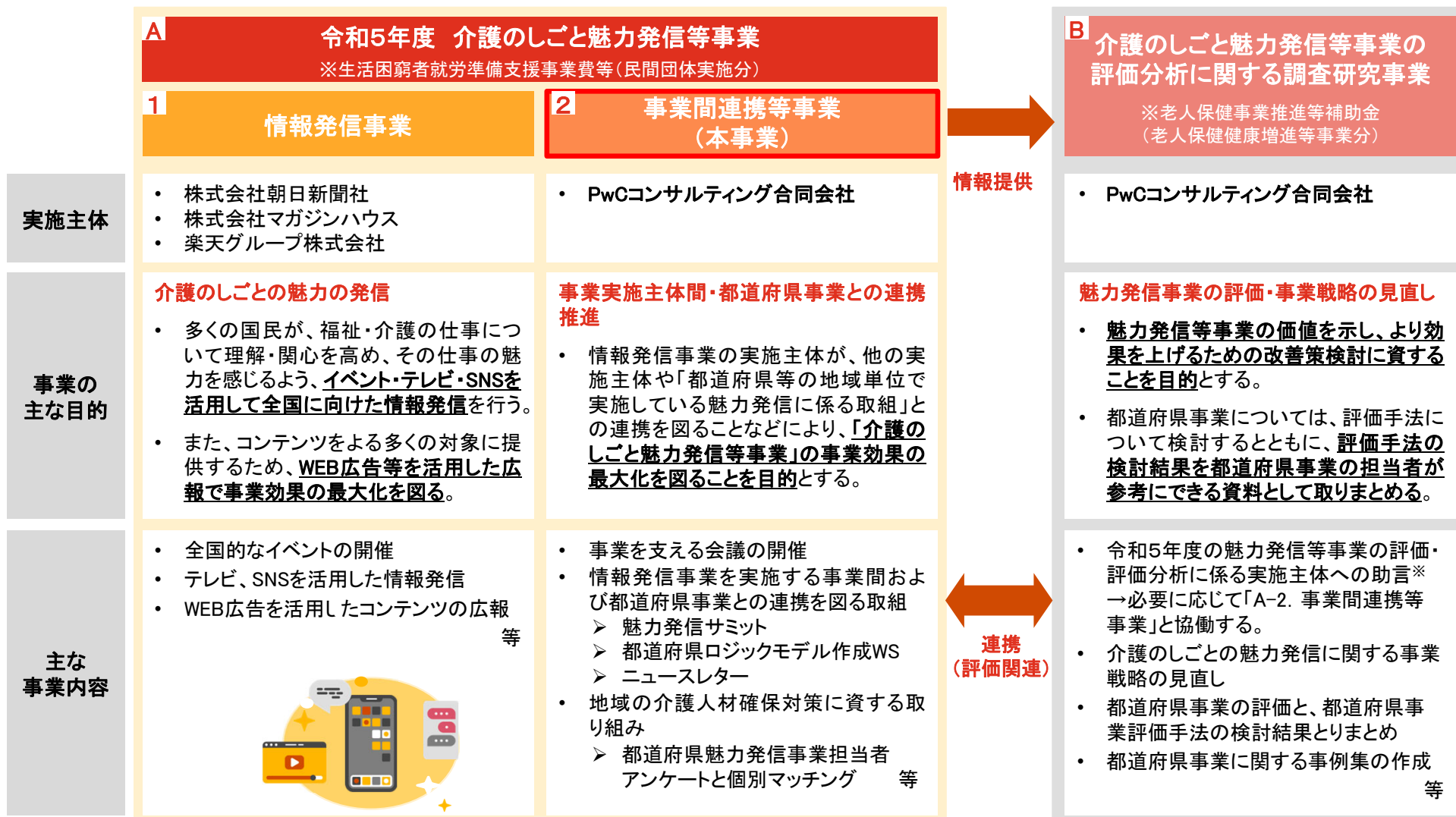
自治体が自分たちで評価を行えるようにする基盤(評価基盤)を整える必要性が明らかに

本事業・評価分析事業※2での取組(見込)

- 令和4年度事業でのデスクリサーチ・アンケート結果をもとに「事業の実施状況」の設問で解釈のぶれ等が生じている項目を特定 **★評価分析事業で対応予定**
- 記入の参考になる**回答要領を作成**する。設問文自体を見直す必要があれば、提言として更新版調査票を作成 **★評価分析事業で対応予定**
- 作成した上記の**回答要領を、事業間連携等事業にて都道府県へ配布** **★事業間連携等事業(本事業)で対応予定**

【参考】評価分析事業(老健事業)との棲み分け

- 弊社が現在実施する「介護のしごとと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」(厚生労働省 老人保健健康増進等事業)では魅力発信事業の評価と事業戦略の見直し・都道府県事業に関する事例集の作成等を実施する。



PwC ※ 「介護のしごとと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究」では「令和5年度介護のしごとと魅力発信等事業」の全体について評価を実施する。
「介護のしごとと魅力発信等事業」(A)の各事業に関する詳細な評価は、各事業の実施主体が自己評価を実施し、取りまとめる。

3. 事業説明 ⑤報告書の作成

章立て案

1. 事業の背景・目的
2. 事業説明
 - ① 企画委員会の設置運営
 - ② 事業間連携会議の開催
 - ③ 介護のしごと魅力発信サミット、付随するイベントの開催
 - ④ 事業の評価分析
3. 事業の実施結果
 - ① 事業間連携等事業（本事業）の評価
 - ② 情報発信事業の評価
 - ③ 介護のしごと魅力発信等全体の評価
4. まとめ
 - ① 本事業の成果
 - ② 残された課題
 - ③ 今後に向けてすべきこと

www.pwc.com/jp